

そのほかにも見どころ満載、三菱一号館。1階にも歴史や文化を感じられるスペースがあります。

展示会にちょっと疲れたら・・・



Café1894

旧銀行格差感を再現した空間で、明治時代と変わらない光を感じながら寛いでみよう。

展示会の思い出を持ち帰るなら・・・



Store1894

三菱一号館をたっぷり堪能した後は、国内外から集めた、楽しい、実用的なミュージアムグッズをおみやげにしよう。

もっと、丸の内の歴史に触れたいと思ったら・・・



歴史資料室

煉瓦記念展連動企画「フィルムに記録された在りし日の東京、丸の内」の秘蔵映像を観よう。

三菱グループの歴史と文化に触れたいと思ったら・・・

三菱センター

デジタルギャラリー

丸の内の歴史と共に歩んできた三菱グループ
各社が持つ貴重な文化財を観てみよう。

本展開催概要

開催期間：2009年9月3日(木)～2010年1月11日(月・祝)

開館時間：【火・土・日・祝】10時～18時

【水～金】10時～20時

※ いずれも最終入館は閉館30分前

※ 初日9月3日(木)は11時開館

休館日：月曜日(但し、祝日の場合は開館し、翌日休館)、1月1日

※ 9月21日(月・祝)～23日(水・祝)は閉館

主催：三菱地所、三菱地所設計

後援：東京都公園協会、日本建築学会、日本都市計画学会

協賛：竹中工務店

協力：三菱製紙

三菱一号館と一丁倫敦

三菱一号館は、わが国で初めての近代オフィスビル街として建設された丸の内における最初のオフィスビルです。明治27年竣工。煉瓦造地上3階地下1階建、英国ヴィクトリア時代のクイーン・アン・スタイルを模した平面形式で、専用オフィスのほか、賃貸オフィスとして利用されてきました。設計は、御雇い外国人として来日して、教育者として多くの弟子を輩出、多くの建築を築き、日本近代建築の父と言われる、英国出身の建築家ジョサイア・コンドルです。三菱一号館が完成した後、馬場先通には次々と煉瓦造のオフィスビルが建設され、明治40年代には「一丁倫敦」と呼ばれるようになりました。その後、戦後の高度成長期に赤煉瓦のオフィスビルは徐々に建て替えられ、昭和43年に田三三菱一号館も姿を消しました。今回の復元では、可能な限り忠実に創建当時の様子を再現し、外観の赤煉瓦(約230万個)は、当時の製法に極力近づけた製法と積み方で建設されています。三菱一号館は、2010年4月、「三菱一号館美術館」として、丸の内の新しい都市文化の創造・発信拠点としての機能を果たします。

三菱一号館美術館の所蔵作品と開館記念展

三菱一号館美術館の主要所蔵作品は、19世紀末フランスの画家アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック(1864～1901)によるポスター及びリトグラフ二百数十点。ロートレックが生前手元に置き、彼の友人で画商でもあったモーリス・ジュロワイヤンによって引き継がれた世界的にも貴重なコレクションです。開館記念展は2010年4月から開催される「マネとモダンのパリ」。19世紀後半、劇的に変化した近代化を遂げたパリで都市のダイナミズムに照らし出された人々の姿を描いた画家エドゥアール・マネ(1832～1883)を中心に、同時代作家の油彩、建築素描、写真などを加え、およそ100点余りの作品で構成する予定です。



＜エドゥアール・マネ、ポスター＞
1892年 リトグラフ、ポスター



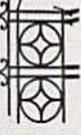
＜エドゥアール・マネ、ポスター＞
1892年 リトグラフ、ポスター

一丁倫敦

1ccho London and the Marunouchi Style



の内の丸



イル



三菱一号館竣工記念

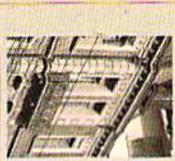
いちちよう 丸の内

「一丁倫敦と丸の内スタイル展」

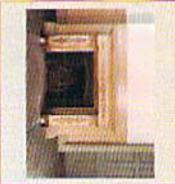
GUIDE MAP

建築の見どころ

①バルコニーの手柄



②大理石の暖炉



③中央階段



戦時中の金属供出で失われたバルコニーの手柄は、Jコンプレックスの建った立面図と暖炉の写真にもとづいて復元されました。

暖炉は、旧三菱一号館の大理石を取り付けられ、保存部材を洗浄、磨きをし直し、元の部屋に戻しました。

化粧材の伊豆青石は、復元では五雲石(中国)を使用しました。グレー色の手摺は保存部材の一部です。

④中廊下



⑤2階窓枠の石(外部)



⑥中央玄関



昭和時代に2色に塗られた壁面を改め、明治期の漆喰だけの白色にし、2-3階はフローリングに戻しました。

元来は伊豆の横根石が使用され、復元では表面が近い江持石(徳島県)を代替材として使用しました。

南側中央玄関の入口には外気の侵入を防ぐ風除室が設けられています。

⑦旧銀行営業室



⑧鉄骨階段



⑨歴史資料室



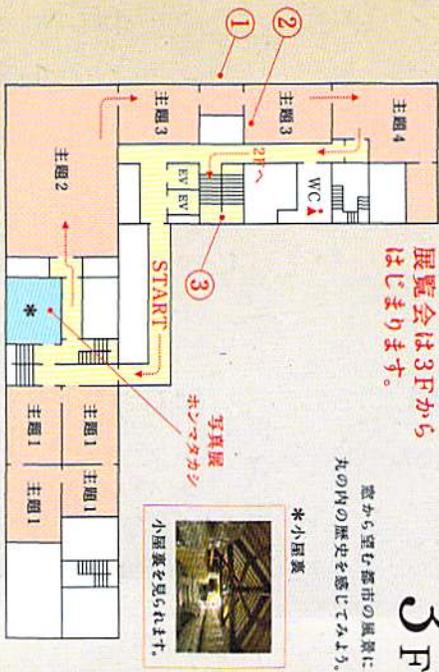
写真は明治27~29(1894~1896)年に撮影されたもので、現在のカフェは、銀行営業室として使用されています。

旧三菱一号館解体時の写真と当初図面との割合により復元された、組み立て式の鉄骨階段です。

歴史資料室では旧三菱一号館が竣工した明治27(1894)年の内装が忠実に復元されています。

3F

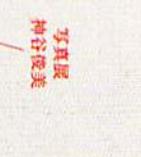
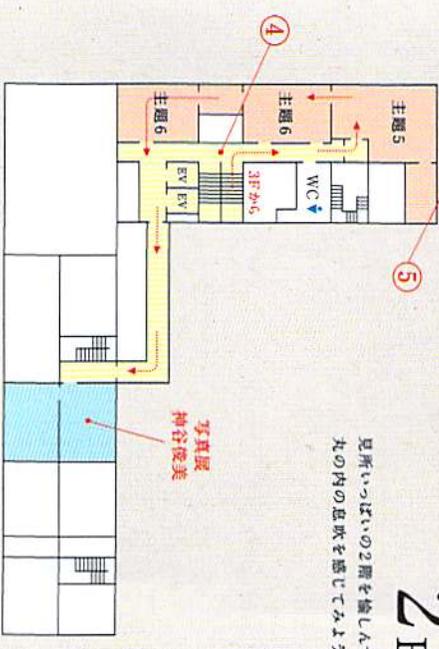
窓から望む都市の風景に丸の内の歴史を感じてみよう。



＊小部屋
写真展 ホンマタカシ 小部屋を見られます。

2F

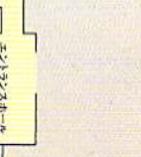
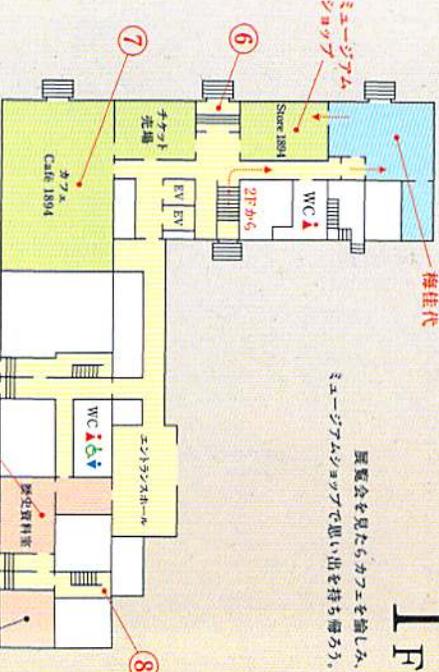
見所いっぱい2階をゆきんで丸の内の歴史を感じてみよう。



写真展 神谷俊美

1F

歴史資料室を見たらカフェをゆきみ、ミュージアムショップで思い出を持ち帰ろう。



写真展 梅佳代

都市・建築展 「三菱一号館からはじまる丸の内の歴史と文化」



明治期の三菱一号館 映像でたどる丸の内空間の歴史

丸の内の黎明期 建築家ジョサイア・コンドルと丸の内丸の内における最初のオフィスビル、三菱一号館、設計したジョサイア・コンドルの足跡を辿りながら丸の内の歴史を紹介しています。



近代や保存部材で築く、三菱一号館復元計画の全貌 (模型：複製から施工まで)

丸の内の赤煉瓦街「一丁倫敦」の誕生 三菱一号館復元の祖業となる保存部材や設計過程を示しつつ、復元によってもたらされた建築的成果を様々な現物展示とともにご紹介しています。

主題2. 三菱一号館 一世紀の記録と復元の意義 三菱一号館復元の祖業となる保存部材や設計過程を示しつつ、復元によってもたらされた建築的成果を様々な現物展示とともにご紹介しています。



plaplastによる 都市空間の演出

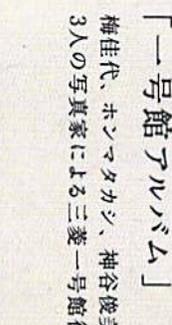
日本の近代都市空間とビジネスマン 「三菱一号館」建設後の丸の内と、そこで働くビジネスマンの姿を、メディアアーティスト「plaplast」が展示演出しています。



想定復元家具による オフィス空間の内装

丸の内の赤煉瓦街「一丁倫敦」の誕生 三菱一号館復元の祖業となる保存部材や設計過程を示しつつ、復元によってもたらされた建築的成果を様々な現物展示とともにご紹介しています。

丸の内の赤煉瓦街「一丁倫敦」の誕生 三菱一号館復元の祖業となる保存部材や設計過程を示しつつ、復元によってもたらされた建築的成果を様々な現物展示とともにご紹介しています。



plaplastがCCD映像と美しいグラフィックで再現した、近代の人の暮らしの瞬間

ビジネスマンの暮らしに見る都市文化 明治・大正のビジネスマンが日常どのような暮らしをしていたか紹介しています。



衣装が語る明治・大正の丸の内スタイル

丸の内スタイルの誕生 明治・大正の丸の内のビジネスマン共働きのライフスタイルを再現、女性の相模は湯田原子コロコロコロンを展示しています。また、チヤナイー、ホーロー、ステンレスによるインスタレーションをお楽しみいただけます。

丸の内スタイルの誕生 明治・大正の丸の内のビジネスマン共働きのライフスタイルを再現、女性の相模は湯田原子コロコロコロンを展示しています。また、チヤナイー、ホーロー、ステンレスによるインスタレーションをお楽しみいただけます。

写真展

「一号館アルバム」

梅佳代、ホンマタカシ、神谷俊美 3人の写真家による三菱一号館復元の記録



ホンマタカシ (3F)



神谷俊美 (2F)



梅佳代 (1F)